

地域社会と連携したガス安全使用のための取り組み

日本 I

速やかな緊急停止で、二次災害を未然に防止

万が一、大きな地震が発生した場合に備え、お客さまや地域の安全を守るため、さまざまな対策が施されています。あらかじめ設置されている安全装置の作動^(注1)や、地域全体のガス供給を遠隔でコントロールできる防災システムの稼働などによって二次災害を未然に防ぎます。また細分化された導管網の「ブロック化」により、お客さまのご不便を最小限に抑える仕組みも整っています。

(注1) ガスメーターによる安全対策～世界最高水準の地震自動遮断機能保有装置～

<特徴>

- 全戸に設置済み
- 安全装置を内蔵しており、震度5程度の揺れを感知した際に、ガスを自動遮断
- 揺れがおさまった後に、お客さまご自身で簡単に復帰が可能
- 復帰操作の過程で、屋内のガス配管に漏洩がないことを確認

安全装置が働いてガスの供給をストップしたガスメーターの復帰作業を市民の皆さまに自ら行なっていただくことは、地域の防災力向上の観点からも重要であると考えており、安全機能ならびに復旧方法を子どもから大人まで誰もができるように防災イベントを、東京ガス・行政・市民が連携して、継続して実施しています。



安心してガスをお使いいただくため、地域社会と連携を構築

お客さまにガスや防災を理解していただくために大切なのが行政をはじめとした、関係各所との連携です。活動の基本である全市民を対象とする広聴広報活動に加え、実際に地域防災の核となる行政（防災担当）や自治会などの窓口となる行政（地域担当）、防災に関心の高い市民（防災ボランティア）、地域とのパイプが強い市民（防災ボランティア）、そしてNPOとの連携が、“いざ”という時に極めて重要になってきます。これらの関係各所と、お互いに顔の見える関係、意見が言い合える関係を構築するべく、以下に述べる防災フェアをはじめとした各種活動を展開しています。

<2006年度の横浜での取り組み>

- ◇ 東京ガス、行政、市民ボランティア、NPOが協働で、災害時に自ら判断して、パニックを回避し、安全行動できるジュニアを育成することをテーマとして実施。
- ◇ 実施内容の主なものは、防災キャンプと参加型ワークショップの開催。

◆防災キャンプ

小学3年から6年までの児童を対象にサバイバルキャンプ体験から防災シンポジウムで成果発表を

行うまでのプログラムです。NPO 法人「I Love つづき」と協働で行政や大学の研究室などを巻き込み実施。消防による防災訓練をはじめ、危険な箇所や災害時に役に立つ箇所を確認する防災まちあるき体験、ライフラインが止まったことを想定した移動式ガス発生装置による炊き出し訓練、ガスメーターの復帰操作など幅広く体験していただきました。



— 背 景

東京ガスは、首都圏の1都7県の1000万件のお客さまに、24時間365日、都市ガスをお届けしています。万が一に備えた万全の地震防災対策を施すとともに、行政や市民など地域の皆さまと連携し、地域社会の防災力の向上に取り組んでいます

— 目 的

大きな地震が起こっても、できる限りガスの供給を継続するための「予防対策」、地震が発生した際に、二次災害を未然に防ぐための「緊急対策」、災害後、早急にガス供給を再開するための「復旧対策」。これら3つの柱を常に万全の体制にしておくことで、お客さまの生活への影響を最小限にとどめます。

— 期 間

— 活 動

— 主な成果

— 予算総額

— 連絡先

東京ガス株式会社
Corporate Communications Dept.
電話 : +81-(0)3-5400-7820
FAX: +81-(0)3-3437-9130
E-mail: scenter@tokyo-gas.co.jp